

令和 7 年度事業報告

(令和 7 年 4 月 1 日－令和 8 年 3 月 31 日)

I. 会員数 (令和 8 年 3 月 31 日)

- | | | |
|----------------------|-------|---------|
| (1) 名誉会員 | | |
| 令和 7 年 3 月 31 日会員数 | 6 名 | |
| 名誉会員現在数 | 6 名 | |
| (2) 正会員 | | |
| 令和 7 年 3 月 31 日会員数 | 948 名 | |
| 令和 7 年度新入会員数 | 125 名 | |
| 令和 7 年度退会者数 | 111 名 | |
| 内訳 | 希望退会者 | 111 名 |
| | 物故者 | 0 名 |
| 正会員現在数 | 962 名 | (14 名増) |
| (3) 維持会員 | | |
| 令和 7 年 3 月 31 日維持会員数 | 93 社 | |
| 令和 7 年度入会社数 | 2 社 | |
| 令和 7 年度退会社数 | 4 社 | |
| 維持会員現在数 | 91 社 | (2 社減) |

II. 第 72 回通常総会

開催年月日： 令和 7 年 5 月 22 日

開催場所： 名古屋国際展示場（ポートメッセなごや）コンベンションホール

III. 理事会、理事・評議員懇談会

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| (1) 理事会 4 回開催 | |
| ① 第 1 回 | 開催年月日： 令和 7 年 4 月 23 日 |
| | 開催場所： 東京大学農学部 3 号館 141 会議室 |
| ② 臨時 | 開催年月日： 令和 7 年 7 月 30 日 |
| | 開催場所： オンライン開催 |
| ③ 第 2 回 | 開催年月日： 令和 7 年 11 月 7 日 |
| | 開催場所： 東京大学農学部 3 号館 141 会議室 |
| ④ 第 3 回 | 開催年月日： 令和 8 年 3 月 10 日 |
| | 開催場所： オンライン開催 |
| (2) 理事・評議員懇談会 1 回開催 | |
| | 開催年月日： 令和 7 年 5 月 20 日 |

開催場所： 名古屋駅 JR タワー5F セミナー室

IV. 定期学術集会の開催

第 72 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会 期： 令和 7 年 5 月 21 日（水）～23 日（金）
会 場： 名古屋国際展示場（ポートメッセなごや）
会 長： 長尾静子（藤田医科大学）
参加者： 1,353 名

V. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、公開した。

発行年月日	巻	号	備 考
2025 年 4 月 1 日	74	2	
2025 年 7 月 1 日	74	3	
2025 年 8 月 1 日	74	Supplement	Proceedings of the 72nd JALAS Conference
2025 年 10 月 1 日	74	4	
2026 年 1 月 1 日	75	1	

VI. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 令和 7 年度学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞（1 名）

安居院高志 元会員（北海道大学）

2) 安東・田嶋賞

該当者なし

3) 奨励賞（2 名）

中野堅太 会員（国立国際医療研究センター研究所）

「異種膵島移植のための重度免疫不全マウスを背景とした新規糖尿病モデルマウスの樹立」

坂本晃海 会員（実中研）

「実験動物の 3Rs に貢献できる非侵襲的なデバイスの開発」

4) 2024 年 Experimental Animals 最優秀論文賞（3 編）

○柊内亮太、木村公一、雑賀 彪、藤井 渉、森田啓行、中西弘毅、水流功春、関澤信一、
山内啓太郎、桑原正貴

Ivabradine ameliorates cardiomyopathy progression in a Duchenne muscular
dystrophy model rat

「イバブラジンはデュシェンヌ型筋ジストロフィーモデルラットにおける心筋症の進行
を抑制する」

- 進導美幸、寺尾美穂、高田修治、一ノ瀬実、松坂恵美、横井 匡、東 範行、水野聖哉、津村秀樹

Establishment and visual analysis of CBA/J-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} and C3H/HeJ-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} mice

「CBA/J-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} マウスと C3H/HeJ-*Pde6b*^{Y347Y/Y347X} マウスの樹立と視覚解析」

- 渡邊正輝、二階堂優子、佐々木宣哉

Validation of the anesthetic effect of a mixture of remimazolam, medetomidine, and butorphanol in three mouse strains

「レミマゾラムベシル塩酸を含むマウス用三種混合バランス麻酔薬の評価」

5) 第72回総会 優秀発表賞

- 田口 純平、伊川 正人、小沢 学

「2段階ES細胞ゲノム編集による遺伝子全長ヒト化マウス作製法の開発」

- 三上 夏輝、小山 隼、村田 知弥、杉山 文博、水野 聖哉

「心臓を標的とした迅速 cKO 法による RNA 結合タンパク質群の機能解析」

- 野口光央、谷原史倫、向田風沙、山中修一郎、稲毛由佳、原 弘真、井上 誠、花園 豊、横尾 隆、本多 新

「異種移植用ドナー臓器「ヒト-ブタハイブリッド腎臓」を実現するノックインブタの作出」

(2) 令和8年度学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞

該当者なし

2) 安東・田嶋賞 (1名)

高橋英機 会員 (九州大学)

「神経疾患モデルの深化とそれを支える飼育環境の最適化に関する研究」

3) 奨励賞 (2名)

村田知弥 会員 (岐阜大学)

「生体内タンパク質相互作用解析を可能とするマウスモデルの開発と技術基盤の確立」

田中美有 会員 (大阪公立大学)

「*Hspa8* 遺伝子変異ラットの新規神経軸索ジストロフィーモデルとしての確立」

4) 2025 年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (3 編)

- 金子 結、保田昌彦、小牧裕司、小倉智幸、高橋利一、山本真史

Identification of gene mutations associated with the phenotype of short-limb mice emerging from a foundation colony of severely immunodeficient mice

「重度免疫不全マウスのコロニーから出現した短肢マウスの原因遺伝子の同定」

- 中川達哉、江森千紘、伊川正人

Trophectoderm-specific gene manipulation using adeno-associated viral vectors

「アデノ随伴ウイルスベクターを用いた栄養外胚葉特異的遺伝子導入」

- 浅井健宏、柄内亮太、水流功春、関口茉莉恵、南 篤、藤井 渉、久和 茂、小川哲弘、角田 茂

Loss of non-canonical translation initiation factors impairs perinatal cardiac

function in mice

「非古典的翻訳開始因子の欠損によりマウスの周産期における心臓機能が減弱する」

VII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度委員会、人材育成委員会、将来検討委員会、動愛法等対策委員会、外部検証委員会を設置し、活動を行った。

VIII. 動物実験に関する外部検証

令和 7 年度動物実験に関する外部検証事業として 24 機関（国立大学 8 機関、大学共同利用機関法人 1 機関、公私立大学 12 機関、その他の文部科学省所管外 3 機関）の外部検証を実施した。（外部検証委員会担当）

IX. 外部検証のための人材育成

文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト「外部検証推進のための人材の育成と活用」の課題を推進した。国動協及び公私動協から推薦された外部検証専門員候補者 6 名に対して外部検証促進のための人材育成講習会を実施した。（人材育成委員会担当）

X. 関連学協会との連携

- （1） 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。
- （2） 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- （3） 国際実験動物科学会議（ICLAS）及びアジア実験動物学会連合（AFLAS）における活動を継続した。
- （4） 2027 年 AFLAS 総会（11th AFLAS Congress 2027）の日本開催に向けた招致活動を行い、第 74 回日本実験動物学会総会を第 61 回日本実験動物技術者協会総会および 2027 年 AFLAS 総会と福岡において合同で開催することを決定した。
- （5） 韓国実験動物学会（KALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。
- （6） 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センター（JaCVAM）など実験動物・動物実験に携わる機関の活動に協力した。

XI. その他

- （1） 第 21 回実験動物管理者等研修会を開催した。（実験動物管理者研修制度委員会担当）

令和 7 年 7 月 3 日（木）～4 日（金）

会 場： 熊本大学生命資源研究・支援センター 遺伝子実験施設 6 階 講義室／ライブ配信

参加者合計：160 名（会場 21 名 WEB 参加 139 名）（会員 37 名、維持会員団体職員 45 名、非会員 88 名）

（2） 第 13 回実験動物科学シンポジウムを開催した。（学術集会委員会担当）

テーマ：「DX 活用による実験動物科学の新展開」

令和 7 年 9 月 26 日（金）

会 場： 京都大学北部総合教育研究棟 益川ホール

参加者合計： 74 名（会員 59 名、非会員 15 名）

（3） 令和 7 年度維持会員懇談会を開催した。（財務特別委員会担当）

テーマ：「実験動物学会を取り巻く最新の話題から」

令和 7 年 11 月 7 日（金）

会 場： 東京大学フードサイエンス棟 2 階中島董一郎記念ホール／ライブ配信

参加者合計： 86 名（会場 52 名、オンライン 34 名）

（4） 動物実験の外部検証：令和 8 年度の実施準備に向けた事前説明会・個別相談会を開催した。（人材育成委員会担当）

令和 8 年 1 月 23 日（金） 東京大学山上会館 大会議室／ライブ配信

参加者合計： 170 機関、402 名（会場 35 名、オンライン 367 名）

（5） 第 75 回日本実験動物学会総会の大会長を選出し開催概要を決定した。

会 期： 令和 10 年 5 月

会 場： 札幌（予定）

大会長： 森松正美（北海道大学）